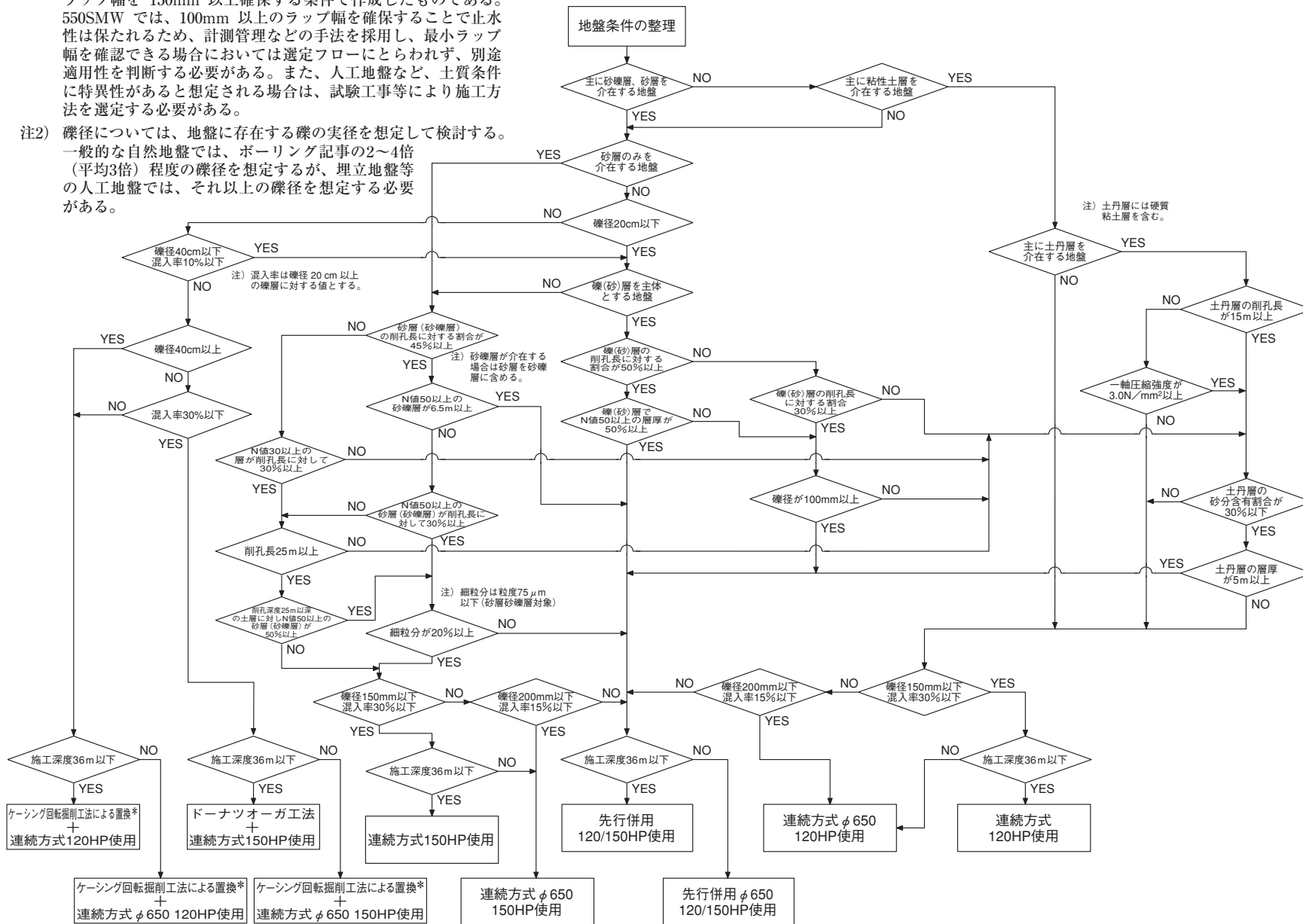


注1) 下記の選定フローは、施工実績を基にソイル下端位置での最小ラップ幅を150mm以上確保する条件で作成したものである。550SMWでは、100mm以上のラップ幅を確保することで止水性は保たれるため、計測管理などの手法を採用し、最小ラップ幅を確認できる場合においては選定フローにとられず、別途適用性を判断する必要がある。また、人工地盤など、土質条件に特異性があると想定される場合は、試験工事等により施工方法を選定する必要がある。

注2) 礫径については、地盤に存在する礫の実径を想定して検討する。一般的な自然地盤では、ボーリング記事の2~4倍(平均3倍)程度の礫径を想定するが、埋立地盤等の人工地盤では、それ以上の礫径を想定する必要がある。



*置換土は、SMW造成時の肌落ち防止のため、低強度の流動化処理土等セメント系改良土によることを原則とする。

図7-1 550 S MW造壁順序及びアースオーガ選定フロー